

戦禍のウクライナの子供たちに心のケアを！

安野清会長から特別非営利活動法人「子供地球基金」に100万円贈呈



安野会長から酒巻事務局長に目録を贈呈

7月21日、子供地球基金への贈呈が、埼玉県上尾市のベルーナ本社で行われました。安野清会長は「ウクライナの子供たちが身につまされる大変な思いをしています。私たちの善意が少しでもお役に立てばと思っています」と、酒巻尚代事務局長に100万円の目録

日本アイスランド協会はウクライナ支援のため、会員及びその家族や友人・知人に義援金を呼びかけ、合計250万円の善意が寄せられました。集まった義援金をどこに寄託するか慎重に検討。特別非営利活動法人「子供地球基金」(鳥居晴美代表)と、一般社団法人「全国日本語学校連合会」(荒木幹光理事長)に寄託することに決定。2団体に寄託しました。皆さまの、ご協力に感謝します。

(脇田巧彦・佐々木雅之)

皆さんの善意250万円、ウクライナ支援2団体に寄託

「責任を持って、現地に赴き、ウクライナの子供たちに直接支援します」と酒巻尚代事務局長



「子供地球基金」の活動は2018年度のノーベル平和賞にノミネートされたことも

を手渡しました。子供地球基金は1988年に創立以来、病气や戦争、災害などで心に傷を負った世界中の子供たちに画材や絵本などの寄付を続けており、酒巻事務局長は「子供たちを恨みため込んדםまま大人にさせてはならない。何とか乗り越えて平和を願う心で育てて欲しい。お預かりした義援金は、私たちがウクライナに持参し責任を持って子供たち支援のため大切に使わせていただき、戻りましたら活動報告をさせていただきます」と感謝の言葉を述べました。

1988年に創立された子供地球基金の活動は、当時4歳の男の子が描いた、地球に太陽と星が水と緑をプレゼントしている1枚の絵をきっかけに始まりました。子どもたちの純粋で優しい気持ちこそが社会を変える鍵だと信じ活動を続け、来年2023年には活動35周年を迎えます。創造力豊かな子どもたちを育てる事を目的に、紛争や貧困、災害などで心に傷を負った子どもたちの心のケアを目的としたワークショップを毎年約100回開催。独創的で精力的な活動は海外でも高い評価を受けており、2018年にはノーベル平和賞にもノミネートされました。子どもたちは、絵を描くことを通じて自分の心に耳を傾け、次第に困難な現実を受け入れ、未来への希望を持つことに繋がります。子どもたちの描いた絵はカレンダーや様々な商品のデザインに使用され、その収益が次の子どもたちを支援する基金となる「Kids Helping Kids」の活動です。

祖国ウクライナから逃れ、全国日本語学校連合会傘下の

ウクライナ義援金寄付者

ありがとうございました

会員	柴崎 薫	増田 恵
浅野 貴之	嶋田 剛	松崎 宏泰
生島 ヒロシ	杉中 尚平	松林 宏明
板橋 和子	鈴木 吉正	水上 孝一
泉谷 聡	関田 勝次	溝口 美純
井上 正巳	瀬島 龍也	目黒 佑樹
猪狩 秀雄	竹内 順子	薬丸 兼弘
榎並 正勝	多田 輝子	矢澤 知嘉子
榎本 和明	田内 寿美	矢島 秀一
遠藤 大輔	津崎 一人	安野 清
太田 晃司	辻村 浩司	山岸 平二
太田 せつ子	寺泉 憲	横川 泰明
岡林 楓	友清 和親	脇田 紀美江
小澤 芳美	中村 ノリ子	脇田 巧彦
笠井 信輔	夏目 勝弘	一般
金子 治男	西 富廣	有村 淑子
鎌木 恒雄	根本 三郎	石口 包
河野 俊史	野原 治人	黒河内 和代
北見 圭一	橋口 康道	女声合唱団四季
木下 伸子	平野 真二	藤田 湮
黒木 順一	福田 敬司	藤田 さくら
黒松 純子	藤田 和美	藤田 央
黒松 洋一	麓 雅子	松本 侑壬子
斉藤 節子	本郷 登実江	六車 佐和子
佐伯 鋼兵	本多 克敏	村松 達夫
坂本 和雄	本田 寿子	安野 公
佐々木 隆之	前岡 千鶴	山本 哲也
佐藤 充雄	増田 勝巳	
澤登 翠	増田 純子	

安野清会長のメッセージ

Ladies and gentlemen!

皆さん、こんにちは。
 私は日本アイランド協会会長の安野清です。
 本日は、お集まりいただきありがとうございます。
 皆さんの母国ウクライナは現在、ロシア軍の侵攻で国土が焦土化し、多くの国民が、戦争の犠牲になっています。皆さんも両親や兄弟、ご主人を母国に置いたまま、日本に避難されてきた方も多いと思われます。

私たちの日本アイランド協会は、そうしたウクライナの方々の生活支援をする為に、会員や関係者に義援金をお願いし、本日、日本語学校で日本語を学んでいらっしゃる皆さんに、生活支援の一助として、お1人7万円を贈呈することといたしました。

日本アイランド協会のモットーは「お互いに困った時に助け合う」で、これまでもさまざまな支援活動を行ってまいりました。皆さんも、日本語学校で日本語をしっかり勉強され、日本の生活様式になじんで、明るく楽しい毎日を過ごされることを心から願っています。そして、母国ウクライナが一日も早く平和を取り戻して、皆さんが母国に帰国し、安心して、肉親の方々と平和な日常生活ができる日を待ち望んでいます。

どうか、日本での生活が健康で実り多い日々であることを願って私の挨拶といたします。

2022年7月25日
 日本アイランド協会
 会長 安野 清



ウクライナ国家「ウクライナは滅びず」を合唱する研修生たち

埼玉新聞掲載記事



スポーツニッポン掲載記事



日本語学校で学ぶウクライナ語学研修生に生活支援金を贈呈



ウクライナ語学研修生20人と日本アイランド協会関係者が仲良く集合写真



安野会長から1人1人に生活支援金7万円が渡された

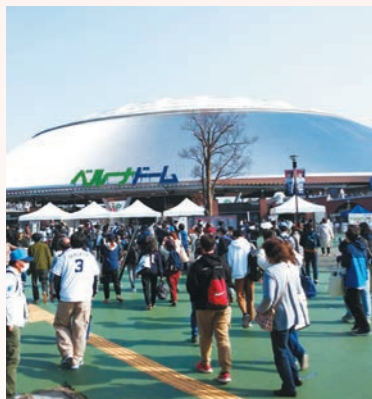
7月21日の子供地球基金への義援金寄託に続いて、7月25日、ウクライナ難民の語学研修生への生活支援金授与式が東京・千代田区の連合会館で行われました。ロシアの侵攻により、ウクライナから避難。一般社団法人全国日本語学校連合会（荒木幹光理事長）傘下の日本語学校で日本語を学ぶ研修生20人に、生活支援金の一助として、1人7万円が安野清会長から一人一人に手渡して贈呈されました。安野会長は「日本の生活様式に馴染んで、明るく楽しい毎日を過ごされることを心から願っています。そして、母国ウクライナが一日も早く平和を取り戻して、皆さんが母国に帰国し、安心して、肉親の方々と平和な日常生活ができる日を待ち望んでいます。」と挨拶しました。

安野会長が20人のウクライナ語学研修生に1人7万円を手渡す

「母国ウクライナからは何の補助もないのに、私たちにこのような支援をいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。大切に使用させていただきます。」と涙を流しながら話した。研修生たちは「日本アイランド協会がウクライナに支援してくださることに驚きました。母国からは私たちに何の補助も無いのに、大好きな日本から、この様な形で支援いただけて感謝の気持ちで一杯です。頂いた支援金は日本語の勉強のため、生活する上で足りないものの購入、残りは今後何があるかわからないので、自分のため、家族のために大切にしたいです」と感謝の気持ちを述べました。授与が終わると語学研修生全員が集まり、支援金への感謝の意として、自由と栄光を謳ったウクライナの国家「ウクライナは滅びず」を合唱。母国ウクライナへの熱い想いを歌い上げた。

母国ウクライナからは何の補助もないのに、私たちにこのような支援をいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。大切に使用させていただきます。

TOPICKS



ペルーナドーム



植樹から12年目 見事に開花した桜



日本桜の下でヴァイオリンを弾く少年

当協会が2011年に創立20周年を記念してアイスランドの首都レイキャヴィック・チヨルトニ湖畔の公園に植樹した日本さくら50本が、今年も1本も枯れることなく開花の便りが届きました。今年も5月に駐アイスランド日本大使館員や市民による花見の会が開催されました。日本桜に対してアイスランドに赴任した歴代日本大使も、駐日アイスランド大使からも「とても良いことをしてください」といってお褒めの言葉を頂いております。また、皆さんと訪アして花見の宴をする日を楽しみにしています。

あと一つ、明るいニュース。当協会の安野清会長が社長の榎ペルーナが今季から5年間、西武ドームの命名権を得て「ペルーナドーム」に名称変更されました。おかげで西武ライオンズは優勝の勢い。皆さんもぜひペルーナドームに足を運んでください。

(協田巧彦)

2021年12月1日 アイスランド大使館で クリスマスパーティー 開催



クリスマスパーティー。右から3人目は元駐アイスランド日本大使の志野光子さん

2021年12月1日、高輪にあるアイスランド大使館で、クリスマスパーティーが開催され私たち協会会員にもお声がかかり参加しました。大使館の外壁にはイルミネーションが点灯し、会場内もクリスマスらしい赤い実の添えられたキャンドルがセンス良く飾ってあり、アイスランドへ来た気分です。

アイスランド語が飛び交う中、日本からは、元在アイスランド日本国特命全権大使の志野光子様、日本アイスランド友好議員連盟会長の土屋品子衆議院議員、華道池坊次期家元の池坊専好様、外務省の方々など、錚々たる顔ぶれが出席されました。

まずはヨハネソン大使の歓迎のスピーチの後、大使夫人の手料理に舌鼓を打ちながら、楽しい歓談です。アイスランドは男女平等も進んでおり、日本社会を見直す契機となる点が多くあります。コロナで海外旅行が難しい昨今ですが、当協会のメンバーで早くアイスランド訪問をしたいと思う、素晴らしい時間でした。

(理事 柴崎 薫)

2021年度 協会総会を開催 (2022年4月21日 新宿で)

笠井信輔協会親善大使が「生きる力～ステージ4からの生還～その後」講演

コロナ禍で開催が危ぶまれた総会でしたが、2022年4月21日新宿グランベルホテル12階レストランで、2021年度協会総会を開催しました。当日は約40名がお忙しい中参加頂きました。

総会では会計報告の後下記6名の方が人事昇格され、安野会長より委嘱状が授与されました。

総会終了後、特別会員兼親善大使の笠井信輔氏のトークショー「生きる力」(ステージ4からの生還)、「その後」があり、昨年に続きさらにバージョンアップした「その後」のお話もしていただいだけ、会員の皆様もメモを取りながら熱心に聞く方もおり、私自身もとても勉強になりました。

また、懇親会は新宿グランベルホテル13階のルーフトップバー&テラスに移動し、ソプラノ歌手で会員の矢澤知嘉子さんが素敵な歌を披露して下さいました。

素敵な歌声に、懇親会は大盛況で幕を閉じました。

コロナ禍の中、昨年に続き、今年も総会を開くことができたのも、会員の皆さまのおかげでございます。今後とも、ぜひともお力を貸していただけ



総会には40人の会員が集合



あいさつする安野清会長

ますよう、私たちも一層精進してまいりますので、何卒よろしくお願致します。

(事務局次長 岡林 楓)

新副会長に小菅洋人スポーツニチ社長。専務理事に山岸平二理事、福田敬司理事。監事に浅野貴之理事が就任。安野清会長から委嘱状を授与



盛り上がった懇親会



矢澤知嘉子さんは得意のソプラノで熱唱



講演する笠井アナウンサー

アメリカ大陸を発見したのはコロンブス(1492年)ではなく、アイスランドのヴァイキング(レイブル・エirikson)であった！それも、コロンブスより500年も前に。考古学上の史実に基づき直系の子孫が明かす本「ヴァイキングアメリカ発見」を日本語に翻訳。出版へ！

(副会長 夏目勝弘)

協会副会長で、元在アイスランド日本国大使館で大使を務めた夏目勝弘さんが、アイスランドの「The Viking Discovery of America」(ヴァイキング アメリカ発見)を日本語に翻訳。日本で出版の準備を進めています。アメリカ大陸をコロンブスより500年も前に発見したアイスランドヴァイキングの史実に基いたストーリー。大変興味深い内容の本になっています。夏目副会長に紹介してもらいました。



原作本「ヴァイキングアメリカ発見」

アメリカ大陸を発見したレイブルの直系子孫で原作者のアンナ・エイツさんと夏目副会長

1 「The Viking Discovery of America」(「ヴァイキング アメリカ発見」)。本書はアイスランド古典文学の「サガ」を主な情報源としつつ、コロンブスがアメリカ大陸を発見した約500年も前にアイスランド人ヴァイキングが既にアメリカを発見していたとの考古学上の史実に基づき、アメリカを発見したヴァイキングの直系の子孫(アンナ・エイツ女史)が書いたものです。アイスランドは世界一平和な国に長年認定されていますが、この平和主義のDNAはアメリカが発見した際、原住民が住んでいたため植民地にせず引き返したヴァイキングの時代に遡ると訳者は考えます。

2 アイスランドに世界初の民主議会が開設された年(930年)の千年紀となる1930年にアメリカよりアメリカを発見したヴァイキング(レイブル・エイリクソン)の銅像が寄贈され、レイキャビクの中央のハットルグリムス教会の前に雄々しく立つております。この場所はアイスランドの観光名所になっています。

3 本書は当初1993年に出版され、

2018年に改訂版が出版されました。日本語には未だ翻訳されておらず、アメリカ発見のヴァイキングの直系の子孫が書いた本である事実をキャッチコピーとすれば、大変興味をそそると思います。ヴァイキングの平和主義、そして勇氣とロマンを日本人特に若者に改めて追体験して欲しい、そして、世界に雄飛し、更に日本を良い国にして欲しい、そんな気持ちから翻訳しました。



アメリカ大陸発見のレイブル・エイリクソン像



ヴィグディス元大統領と夏目副会長

長唄に挑戦

(協会法律顧問・理事 金子治男)

当協会法律顧問の金子治男理事は御年81歳。バリバリの現役弁護士。かつては「演歌の治男」と呼ばれたのど自慢。CDも出すほど演歌にのめり込んだ。そんな金子さんが、今、なんと長唄に本格挑戦中。その本懐をつづつていただいていた。

演歌の世界にも飽きが来た。演歌を聞くと心が震えるという感動も消えてしまった。さあ、どうするかーと言っても、今更ジャニーズの歌や踊りを見る気もしないので、元に戻って和物でも練習してみようかと思ひ、長唄の師匠につくことになった。人間国宝の宮田哲先生のCDを教材に、越後獅子、勸進帳、新曲浦島と大物を3曲習った。何か感じたことはあるかー？何を感じたことは無い。長唄というのは歌舞伎のバック、ミュージックであり、江戸、明治初期の町人文化の花形だったと感

じた。どの歌も、いわゆる遊び人の歌である。1曲の長さが30分もかかる長編作曲であり、それを習得するには師匠につきそって毎日を三味線漬けとなって練習するしかない。今の世はCD録音があるが、これが無かった時代には三味線の音で直に唄を聞いて覚えるしか

な



▲豪華三味線の伴奏で本格的に長唄を習得中の金子理事(右)

かった。これは時間と金を持ち余した豊かな町人の芸事である。よくもまあ、こんな道楽文化が今まで絶えず残っていたものだと感じている。しかし私は未だ習い始めて3年目だ。そんな生意気なことを言っていないで、もっと長唄の神髄を探してみたらどうかーと思つて、今は一生懸命に練習している。遊びの世界の「優雅、美」があるのかも知れない。小ぶしの後の余韻の残し方等にそんなものを感じることがある。

世界初の女性大統領ヴィグディス・アイスランド共和国大統領に「天女の像」を贈呈の思い出

(理事 本田壽子)

日本アイスランド協会の創立に関わったことは、私の人生においてエポックメイキングな出来事でした。一九九一年十月十四日。日本アイスランド協会の創立総会が東京・渋谷の東急文化会館で開催されたのに合わせて、アイスランド共和国の女性大統領ヴィグディス・フィンボガドゥテイル女史が来日。スポーツニッポン新聞社を

の像が「友好国アイスランド共和国大統領府で、友好の灯しをともし続けていると思うにつけ、感無量です。

表敬訪問された時、牧内節男社長に依頼で、私どもの会社「フィルメット」が制作した「天女の像」を大統領に贈呈する儀式が行われました。フィルメット社では、光ファイバーをマクラメ状に曲げ発色させる装飾的な手芸技法を開発。エンタメ用の光る衣装や電飾業界の衣装関係やオブジェの仕事に関わってきましたが、この「天女の像」をアイスランド共和国大統領に贈呈したことで信用を得て、その後の展開がスムーズに発展するようになりました。

あれから三十一年。あの「天女



本田理事から「天女の像」を贈呈されたヴィグディス大統領。右は牧内社長

ウクライナ支援に思うこと

先日、当協会からウクライナ支援2団体に義援金が寄付されました。素晴らしい活動だと思います。最近この種の報道で気になるのは「ウクライナ避難民」という言葉です。「難民」ではなく「避難民」…。難民とは「難民条約によって、自国では迫害を受ける恐れがあるので他国で国際的保護を必要とする人」ですが、避難民は「天災や戦災から逃れてきた人」という漠然とした意味しかありません。ウクライナの人々はなぜ「避難民」なのでしょう？ 去年の国別の難民認定率と人数を見ると 英国63%(約3万8千人)、カナダ62%(約3万3千人)

アメリカ32%(約2万人)。それに比べて日本の認定率は0.7%、74人だけ。実質的に難民を受け入れない国なのです。しかし、ウクライナの人達を助けられないわけにはいかないの、「難民」ではなく「避難民」として受け入れました。今後この方たちが日本に住む権利を得られるのか？ 私たちはそこまでみて行かないといけませんね。



多方面に活躍の笠井アナ

(協会親善大使 笠井 信輔)

白夜のアイスランドでミッドナイトゴルフを楽しみたい

連日猛暑が続く中、私はマスクをかけて自粛生活を送っておりますが、寝苦しい夜に「涼しいアイスランドに今すぐ飛んで、グトルフォスの滝に打たれたい！」と妄想に駆られるのです。アイスランドのレイキャビクは今日(8月1日)の正午、気温が8度です。そして、コロナ対策に積極的なレイキャビクは感染拡大がほぼ終息しているようです。猛暑とは無縁なアイスランドで白夜の下ラグーンの温泉に浸かり、ラム肉料理に舌鼓を打ちたい！と贅沢な夢を見ている。

贅沢と言えば、アイスランドから約1000km南にあるスコットランドで25年前、全英オープン開催のゴルフコースを10日間チャレンジしました。勿論セントアンドリュースでもプレイしましたが、自然の地形を生かした歴史あるゴルフ場に圧倒されました。

氷の国アイスランドにはゴルフ場は無いと勝手に思い込んでいましたが大間違い！世界最北端にあるカントリークラブでは、世界中からゴルファーが訪れて白夜の中、夜を徹して競うミッドナイトオープンという大会があると知り驚きました。

老後一番住みやすい国アイスランドを元気なうちに訪れて、美しいオーロラを拝んでミッドナイトゴルフもしてみたいです。



第1回「叙々苑カップ」で優勝した寺泉憲さん



(協会親善大使 寺泉 憲)

ICELAND REPORT アイスランドレポート

島国。火山列島。温泉が豊富。漁業が盛ん。軍隊保有せず、平和な国—アイスランドと日本は共通点が多い。駐日アイスランド大使館の商務・広報担当の保坂亮介さんに、最近のアイスランド事情「温暖化の影響、火山の爆発」について綴ってもらった。

8月のアイスランド、首都レイキャビクの気温は平均13度で非常に涼しい、アイスランドは一般家庭にエアコン・クーラーはない。その代わりに地熱発電で使った排熱水や温泉水をつかった地域熱供給(ディストリクトヒーティング)によって、長く寒い冬でも家屋を温めてくれる。

一方、温暖化はアイスランドでも顕著で、オクヨクトル氷河は2014年に溶けきった。カトリン・ヤコブスドットイル首相は溶けきった氷河の「葬式」を行い、そして温暖化対策への注力を宣言した。環境保護などを訴える作家アンドリスナイル・マグナソン氏も「今後200年以内に状況が改善しなければ、オクヨクトルと同じ道順をアイスランドの氷河は辿るだろう。我々は忘れてはならない」と言及した銘板を配置した。

現在様々なリスクが蔓延している。治安面だけでなく、病原感染リスク。ロシア軍のウクライナ侵攻。それにおけるエネルギー確保や食料確保への影響。経済格差も浮き彫りになってきている。今、私たちがアイスランドから何を学べるのか、そして大使館として、いち日本人職員として、日本の方々にとってどのようなものにバリューを感じ取ってもらえるか、外交政策やビジネスの推進を越えた相互協力・協力関係の構築や深化を模索し、取り組んでいきたい。

8月初旬現在、アイスランドでは2021年に噴火した場所とほぼ同じレイキャネス半島に位置するファグラダルスフィヤル火山が噴火している。インフラや空路への影響はないものの、有毒ガスなど発生の危険性があり、一般人は近づいてはならないとされ、注意を怠らないようにアイスランド政府が呼びかけている。本格的な噴火となれば、2010年の噴火同様の影響が発生するだろう。前兆として噴火の前には地震も多数発生していたとのこと。余談を許さない状況だ。2021年の時は噴火が落ち着いたころには火山ピクニックをアイスランド人は楽しんでた。この噴火も落ち着けばそうなるだろう。自然とともに生きる、という考え方は日本人にも親和性があると思われる。

(駐日アイスランド大使館 保坂亮介)



鹿児島島の桜島もレベル5の噴火

酒巻尚代事務局長「子供地球基金の活動は滅多にない明るい話題として報道されました」



子供たちの絵はどれも明るい



戦火の中、無心に平和への願いを込めて



東部激戦地からの子供の表情は暗い



国立林業大学の壁にも壁面アートを



今の時期にわざわざ日本から来てくれたということに現地の人々は心から感謝してくれ、話をしながら涙する人たちもいました。ワークショップでは、自由に表現することのできる時間を心から楽しんでる様子の子どもたちもいれば、活動に参加しながらも表情が暗く全く笑顔のない子どもたちもあり、その多くがロシア語話者であったことから、東部の戦乱の激しい地域から逃れてきた子どもたちと思われ、心の傷の大きさを垣間見るようで胸が痛みました。表現することを通して、子どもたちが次第に悲しみや恨み乗り越え、平和な未来への希望を見出せる様に願わずにはいられません。ワークショップの様子は、ウクライナの公共テレビで放送されるなど現地メディアの注目を集め、子どもたちの心のケアという本来の活動の目的に加え、ウクライナの方々の心に日本への友好の種を蒔く、草の根の役割を果たせたのではないかと自負しております。

また、ウクライナ国立林業大学の協力により、大学の敷地の壁にウクライナの平和を願う壁画アートを制作致しました。この壁画アートが、現地の方々の心に平和への希望を灯し、日本からの友情を長く伝える存在となることを願って止みません。

**ウクライナの人々の心に
平和への希望を灯し、
日本からの友情を
末永く伝える存在に！**

リヴィウでは、地元の学校の生徒に加え、キーウ、マリウポリ、ドネツク、ヘルソン等ウクライナ全土から集まった子どもたち約100人と計5回のワークショップを行いました。

感謝！子供地球基金の鳥居晴美代表らがウクライナの子供現地支援、帰国報告



ポーランドからウクライナに入る国境検問所から歩いて国境を越え、ホテルに到着



約100人の子供と5回のワークショップを行いました



国営テレビのインタビューにこたえる鳥居晴美代表



ウクライナの国境に近いポーランドのジェシエフ空港に、日本、ロンドン、LA、南仏と、世界各地から集結した子供地球基金メンバーは、国境の町メディアから徒歩で国境を越え、ウクライナに入国しました。3月末には、国境沿いに見渡す限り延々と国連や各国NPOの支援のテントが立ち並んでいましたが、今ではほとんどの支援団体が引き上げています。私たちは国境からさらに車で2時間ほどの街リヴィウの学校と協力して活動を行いました。ヨーロッパ風の街並みが見えますが、リヴィウは一見すると平穏に見えますが、宿泊したホテルではまずシェルターの案内があり、ここが緊張の続く戦争地であることを実感します。実際に私たちがリヴィウ入りする前日には2回、その前日には1回、避難警報が鳴ったことです。21時以降の夜間の外出は禁止されており、また灯火規制もあると見られ、ホテルの玄関さえも薄暗く消灯されていました。

**夜間の外出禁止、灯火規制
緊張続く戦地で、
子供たちの心のケアの
ワークショップを**

日本アイスランド協会様には、子供地球基金に多大なるご寄付を頂戴したことに、心よりの感謝を申し上げます。貴会からのご支援と応援に力を得て、ウクライナで子どもたちの支援活動を行なってまいりましたので、報告させていただきます。

(酒巻尚代 子供地球基金事務局長)

<p>理事</p> <p>株式会社くらしの相談館 代表取締役</p> <p>杉中尚平</p>	<p>理事</p> <p>新東京商事有限公司 代表取締役社長</p> <p>辻村浩司</p>	<p>理事</p> <p>広総業株式会社 代表取締役社長</p> <p>竹内順子</p>	<p>理事</p> <p>株式会社 バガテル 代表取締役社長</p> <p>瀬島龍也</p>	<p>理事</p> <p>有限会社 室町モーターズ 代表取締役</p> <p>室町明</p>
<p>理事</p> <p>株式会社 VITTA 代表取締役</p> <p>薬丸兼弘</p>	<p>理事</p> <p>株式会社 寺田土木 相談役</p> <p>津崎一人</p>	<p>理事</p> <p>株式会社積善社 取締役常務</p> <p>溝口美純</p>	<p>理事</p> <p>ソリッド株式会社 代表取締役社長</p> <p>成田仁</p>	<p>理事</p> <p>シヤルース化粧品株式会社 代表取締役社長 CEO</p> <p>榎本和明</p>

<p>副会長</p> <p>日本アイスランド協会</p> <p>夏目勝弘</p>	<p>副会長</p> <p>銀座コンサルティング 代表</p> <p>小野博</p>	<p>副会長</p> <p>株式会社スポーツニッポン新聞社 代表取締役社長</p> <p>小菅洋人</p>	<p>副会長</p> <p>日本アイスランド協会</p> <p>佐藤充雄</p>	<p>会長</p> <p>株式会社ベルーナ 代表取締役社長</p> <p>安野清</p>
<p>理事</p> <p>株式会社 マスセイ 代表取締役会長</p> <p>増田勝巳</p>	<p>理事・法律顧問</p> <p>金子治男法律事務所 弁護士 (埼玉弁護士会所属)</p> <p>金子治男</p>	<p>専務理事</p> <p>株式会社 マリオン 代表取締役</p> <p>福田敬司</p> <p>お金 第3の置き場 i-Bond</p>	<p>専務理事</p> <p>株式会社 もりくまアート 代表取締役</p> <p>山岸平二</p>	<p>専務理事</p> <p>ロハスグループ 代表取締役会長</p> <p>西村公統</p>

日本とアイスランドは共に平和で自然の美しい国

日本とアイスランドの友好親善は32年目を迎えました

<p>理事</p> <p>株式会社協和テック 代表取締役</p> <p>浅野貴之</p>	<p>理事</p> <p>日本アイスランド協会</p> <p>猪狩秀雄</p>	<p>理事</p> <p>株式会社ベルーナ 執行役員 開発企画本部長</p> <p>安野洋</p>	<p>理事</p> <p>株式会社しんけん 代表取締役</p> <p>丹野健</p>	<p>理事</p> <p>株式会社 トイランド 代表取締役</p> <p>柳井龍彦</p>
<p>会員</p> <p>日本アイスランド協会</p> <p>黒松純子 洋一</p>	<p>会員</p> <p>日本アイスランド協会</p> <p>多田輝子</p>	<p>会員</p> <p>日本アイスランド協会</p> <p>矢島秀一</p>	<p>会員</p> <p>鹿児島谷山観光協会 副会長</p> <p>榎並正勝</p>	<p>監事</p> <p>NPO法人西東京市多分化共生センター 監事</p> <p>木下伸子</p>

<p>理事</p> <p>大和輸送株式会社 代表取締役会長</p> <p>坂本和雄</p>	<p>理事</p> <p>埼京東和薬品株式会社 代表取締役会長</p> <p>関勝</p>	<p>理事</p> <p>株式会社ダスキン山梨 代表取締役会長</p> <p>山口明夫</p>	<p>理事</p> <p>医療法人社団慈康会橋口歯科医院 理事長</p> <p>橋口康道</p>	<p>理事</p> <p>株式会社佐伯紙工所 代表取締役会長</p> <p>佐伯鋼兵</p>
<p>理事</p> <p>株式会社 ステンドグラスパロック 代表取締役</p> <p>白井定一</p>	<p>理事</p> <p>株式会社 スクラムフーズ 代表取締役</p> <p>小池雅弘</p>	<p>理事</p> <p>株式会社 トワイファイブ 代表取締役社長</p> <p>福田尚志</p>	<p>理事</p> <p>武蔵野興業株式会社 代表取締役社長</p> <p>河野義勝</p>	<p>理事</p> <p>株式会社 テレコメディア 代表取締役会長</p> <p>関田勝次</p>

新入会員も増加、有意義な国際交流へ前進！



昨年、新しく在アイスランド日本国大使に赴任された鈴木亮太郎特命全大使が、安野会長に赴任の挨拶を見えました。

(2021年5月31日、ペルーナ本社で)

約2年ぶりの発行となる会報「AURORA」ですが、この2年で様々な事がありました。

新型コロナウイルスの影響で延期となった創立30周年記念祝賀会は2021年10月14日に東京ドームホテルで開催。総勢107名の方々にお越しいただきました。ヨハネソン大使ご夫妻をはじめ、北欧3カ国からノルウェー王国駐日大使ご夫妻、フィンランド大使ご夫妻、スウェーデン大使館公使にもご参加を賜り、大変煌びやかな会となりました。また当日素晴らしい合唱を披露頂いた女声合唱団四季の皆様やトモキヨ音楽院様、アトラクションとして演武を披露頂いた薬丸理事、司会を務めて頂いた笠井アナには改めて御礼を申し上げます。お帰りの際に皆様から「素晴らしい会でした」と温かいお言葉を頂いた時は心から嬉しく思いました。

そしてロシアからの軍事侵攻を受けたウクライナを支援する為、皆様から寄付頂いた義援金は、皆様からの温かいご支援により250万円も集まり、特別非営利活動法人子供地球基金様とウクライナ難民の語学研修生へそれぞれ寄託いたしました。日本アイスランド協会のモットーである「友好国に何かを求めるのではなく、お互いに困った時に助け合う」の精神がまさに体现されており感謝を受けました。ウクライナが一日も早く平和を取り戻して明るく楽しい毎日を通されることを心から願っています。

最後に、新しく日本アイスランド協会へ入会いただいた方々に、新たに役員となった方々を紹介いたします。みなさんと共に有意義な国際交流ができるよう計画して参りますので、アイスランドにご興味のあるご知人がいらつしやればぜひご紹介下さい。今後共何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(事務局次長 岡林楓)

【新個人会員】

- ・赤塚 桂子様
- ・飯野 恵多様
- ・小柴 恵一様
- ・坂本 光代様
- ・高城 可奈子様
- ・矢島 秀一様
- ・吉田 裕美様
- ・飯島 慶子様
- ・河本 知恵様
- ・坂本 篤子様
- ・城本 麻衣様
- ・望月 真様
- ・吉田 節子様
- ・山北 厚様

【新法人会員】

- ・株式会社スプリングヴァレー 代表取締役 泉谷 聡様
- ・株式会社はこ 代表取締役 亀谷 誠一郎様

【新役員】

- ・顧問 河野 俊史様
- ・副会長 小菅 洋人様
- ・理事 広報担当 佐々木 雅之様

名誉会長

株式会社ワッキープロモーション
代表取締役社長

脇田 巧彦

理事・事務局長

株式会社サンワックス
代表取締役社長

野原 治人

理事・広報担当

株式会社大雅
取締役

佐々木 雅之

法人

株式会社大雅
代表取締役社長

遠藤 大輔

法人

株式会社スプリングヴァレー
代表取締役

泉谷 聡